

平成24年度  
実施事業

事務事業名	傷病鳥獣等保護経費
-------	-----------

区分	No	名称
章	2	自然とともに暮らすまち
節	2	自然を生かした潤いのあるまちづくり
施策	1	人と自然が共生する潤いと安らぎのある環境の創出
小分類	2	自然環境の保全と回復
主要な施策	1	①適切な自然環境保全活動の推進
事務事業番号	002	事業開始年度 平成 21 年度 事業終了年度 平成 ー 年度 会計種別 一般会計

部 名	観光経済部	グループ名	農林水産グループ
-----	-------	-------	----------

事務事業の概要 《Plan・Do》

目的	(事務事業の実施目的を具体的に記入してください)
	病気やケガをしている野生鳥獣等を保護し、自然に帰すことを目的とする。
事業内容及び実績	(事業内容及び平成24年度の実績を具体的に記入してください)
	市民から通報を受けた傷病鳥獣等を保護した。  【事業実績】 ・保護頭（羽）数 15頭（羽） ・出勤回数 28回 ・保護鳥獣 野鳥、野生の小動物等
今後の方向性	(次年度以降の事業展開における改善など今後の方向性を具体的に記入してください)
	鳥獣等の捕獲には危険が伴うため、これまでと同様に鳥獣等の知識をもつ専門の団体に事業を委託し、継続していく。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称を全て記入してください)

事業費（財源内訳）の推移 《Plan・Do》

区分		単位	H23年度 決算	H24年度 決算	H25年度 当初予算	H26年度 見込	H27年度 見込
国庫支出金	名称	千円					
道支出金	名称	千円					
地方債	名称	千円					
その他	名称	千円					
一般財源	名称	千円	200	200	192	192	192
事業費 合計			200	200	192	192	192

指標の推移 《Check》

区分		単位	区分	23年度 実績	24年度 実績	25年度 目標	26年度 目標	27年度 目標
成果 指標	① 保護頭（羽）数	頭(羽)	目標値	22	15	15	15	15
			実績値	14	15			
	② 出勤回数	回	目標値	22	22	22	20	20
			実績値	26	28			

**比較** 《 Check 》

<p>平成24年度実施以前又は実施中に見られた課題、問題点等</p> <p>1回の出勤につき支払う金額が一定であり、出勤時間に見合った委託料ではなかった。</p>	<p>左記の解決に向け行った取組や対策、工夫等</p> <p>委託料の算出を見直し、回数に応じた支払いから、出勤時間に応じた支払いに変更を行った。</p>
---	---

**担当グループによる事務事業評価の内容（複数回答可）** 《 Check 》

1. 事務事業の妥当性について			
市が事業主体として実施していくべき妥当性の高い事業ですか？	<input type="radio"/>	① 市が主体に行うべき事業である ② 民間(事業者、市民団体等)でも実施可能である ③ 国、道、他団体等との連携や広域化が可能である ④ 国、道、民間等の事業と重複・類似している	判断理由及びその他所見 傷病鳥獣等の保護は市で財源を確保しなければ実施が困難であるため、市が主体として行うことは妥当である。
2. 事務事業の必要性について			
市民ニーズの状況等から勘案して、必要性の高い事業ですか？	<input type="radio"/>	① 市民、団体等から具体的な要望がある ② 市民アンケートの結果から必要性が高い ③ 社会情勢、地域事情等から必要性が高い ④ 市民の大部分が関連することから必要性が高い	判断理由及びその他所見 傷病鳥獣等の発見にかかる通報件数は増加傾向にあり、その取扱いについては鳥獣に対する専門的な知見が必要となるため、必要性の高い事業である。
3. 事務事業の効率性について			
事業内容とコスト(事業費)のバランスがよい効率性の高い事業ですか？	<input type="radio"/>	① 低予算、少労力で高い効果をあげている ② 市で実施するほうが民間委託より効率性が高い ③ 多額の経費や労力を要するがやむを得ない ④ 将来的に効率性を向上できる	判断理由及びその他所見 市民の通報に対して24時間体制での対応が求められることから、出勤時間数に応じての委託契約であるため、効率性の高い事業である。
4. 事務事業の成果について			
目的を達成するための成果はあがっていますか？	<input type="radio"/>	① 成果指標の向上が見られる ② 市民、団体等の声から成果を感じられる ③ 目に見える形で成果があがっている ④ 成果の把握は困難である	判断理由及びその他所見 傷病鳥獣等に関する通報が多くなっており、鳥獣保護思想の向上が図られている。また、保護事業が適宜遂行できている。

**①担当グループによる評価** 《 Check 》

維持	左記の評価を選択した具体的な理由(根拠)	傷病鳥獣等の自然復帰や市民の通報に適切に対応し、鳥獣保護思想の普及啓発を図るためにも必要な事業である。
----	----------------------	---

**②行政評価会議による評価** 《 Check 》

維持	備考	
----	----	--